

所在地、経営者。▷は調達方法と金額、資金の提供元。期間は関係企業による発表を含め、外部に明らかになった時期を示す。実際の投資実行日と一致するとは限らない。

必要性は従く必要がありません。手元資金を増加させる方法は、①固定資産等を資金化する(定期預金・有価証券・生命保険の見直し等)、②借り入れ等により負債を増加させる(金融機関からの借り入れ、生命保険の契約者貸付等)、③増資や利益の留保により純

**ミドル企業 ジューエーシー 廃棄物「アップサイクル」**

産業廃棄物の処理を手掛けるジューエーシー(仙台市)は、廃棄物を価値ある資源としてよみがえらせる「アップサイクル」に取り組んでいる。廃プラスチックを燃料やブロックなどに加工している。燃料はビニールハウスの熱源として利用し、野菜や果物を栽培し商業施設で販売する。

## 資源創る循環 地域と共に ■大震災機「持続可能」探る

を一貫して手掛ける。宮城県蔵王町にある「蔵王資源リサイクル工場」で回収した廃プラスチックを粉砕し、木材と混ぜた固形燃料のほか、再生樹脂に加工。再生樹脂から作ったガーデニング用ブロックなどは「SINZ EN」のブランドで販売している。工場内には環境に配慮した仕組みが備えられている。排水は循環式の水処理施設を通し外部には流さない。敷地内にパイオマスボイラーとビニールハウスを設置し、野菜や果物を作る。ボイラー燃料として使う廃プラスチックで作った固形燃料は、石灰に比べ二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量が少ないという。

さらにビニールハウスや果物を作る。ボイラー燃料として使う廃プラスチックで作った固形燃料は、石灰に比べ二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量が少ないという。



「眞野屋」の内装は全てリサイクル品だ

「眞野屋」の内装は全てリサイクル品だ。家具などが無造作に山積みとなっていた。分別できなかがれきは埋め立てることになる。販売促進の大場吉裕主任は「本当にそれでいいのか、資源を循環させる仕組みが必要だった。そこで考えられたのがリサイクルの7次産業化」と語る。

「リサイクルの7次産業化」の取り組みは同社が考えるリサイクルの仕組みだ。産業廃棄物を固形燃料などに加工することを1次産業とする。2次では固形燃料を使って農産物を生産、3次でそれを販売する。こうした6次産業化に加え、地域や企業を巻き込み持続可能な社会を実現する。

貸借対照表では項目は売上債権をすべて戻す。負債項目と、短期借入金から3・8%増加し借入金0・5%増。資金調達の見進んでいるようだ。総資産と純資産も前年を大きく

に5年後までの平均月間賃料を予測する機能も今夏をメドに加える。資金はエステプロなどの機能開発や人材採用に充てる。

ジューエーシーがアップサイクルした素材は商業施設の内装に活用できる。廃プラスチックを燃料やブロックなどに加工して燃焼して育てた野菜や果物はその商業施設で販売。廃プラスチックを最大限活用できるようにしている。

## アップサイクルはまず産業廃棄物を中心に回収し、種類ごとに分別して解体、再資源化する工程

アップサイクルはまず産業廃棄物を中心に回収し、種類ごとに分別して解体、再資源化する工程。さらにビニールハウスや果物を作る。ボイラー燃料として使う廃プラスチックで作った固形燃料は、石灰に比べ二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量が少ないという。

さらにビニールハウスや果物を作る。ボイラー燃料として使う廃プラスチックで作った固形燃料は、石灰に比べ二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量が少ないという。

2020年版TKC経営指標 卸売業の経営動向

単位千円、%、収録企業数24,009社。変動損益計算書の各年の金額は1企業当たりの平均

## 事業継続力 UPの要点

新型コロナウィルスの感染拡大で、外出自粛や休業要請等による売り上げ減少で中小企業が資金繰り破綻を起さないよう、国や地方自治体による特別融資制度や、給付金・協力の金の制度が創設された。さらに、仕事の仕方や生活様式の変更による事業の

## 給付や融資

か、さらに、今後の状況変化により追加が必要となる資金を調達できるかを確認しましょう。メインバンクに相談することが大切です。普段から適時・正確な財務情報を提供し、事業内容を理解してもらえていれば、緊急時に力になってくれるはずですよ。

東京中小育成、3社  
東京中小企業投資育成(東京の新規投資先3社(うち1社は

TKC経営

卸売業の経営形態化し、電子商取引事業者がますます減少等による国内模の縮小、同業種事業者との競争激化、卸売企業の台よる寡占化の進行、既存の事業者の環境に置かれて2020年版「経営指標」による売上の黒字企業割合10年間にわたり向にあったが、1953・9%と前年より6%低下となった。貸借対照表では項目は売上債権をすべて戻す。負債項目と、短期借入金から3・8%増加し借入金0・5%増。資金調達の見進んでいるようだ。総資産と純資産も前年を大きく

中小経営